

# 環境まじゅり 会報

題字／福田博子氏

編集・発行／入間市環境まちづくり会議



「みんなのごみ部会」の行動部隊である「ごみひろい隊」は、入間市環境まちづくり会議のPRと環境美化を目的として毎月一回（日曜日）、入間市役所からスタートして入間市駅周辺のごみ拾いをしています。

先日、イタリア・ローマのまちづくりを紹介するテレビ番組を見ました。市行政の応援を受け、数人のローマ市民が街の美化や景観形成などのまちづくり活動をしていました。このローマの人々と私たち「ごみひろい隊」には共通点があることが分

## 毎月一回、会員がごみ拾い。 まちづくり・ひとづくり・ごみひろい隊

かりました。それは、ローマ市民がローマを愛しているように、私たち「ごみひろい隊」も入間市をこよなく愛しているということです。

「ごみはその国・そのまちの未来を計るバロメーターだ」と言った学者がいます。さて、私たちが拾うごみからは、入間のどんな未来が見えてくるだろうか。明るい未来、これも、私たち一人一人の市民に委ねられているのです。

今後、四月十六日（日）などに予定していますので、入間市をこよなく愛している皆さん、「ごみひろい隊」への参加を宜しくお願い致します。

（新井 馨）

### 環境基本計画 基本方針

1. 環境意識を持ち、自発的に行動できる市民になる



▲植込みのなかにゴミが多い

**総会** に参加して下さい。

5月27日（土）

午後2時より

市民活動センター 活動室1



# 第4回 環境 ウォー キング

昨年11月20日(日)、まちを歩いて 入間を知る「五感を使った環境チェック」をテーマとした「第4回環境ウォーキング」が、入間市環境まちづくり会議主催で、一般市民70名、役員・事務局27名、合計90名が参加して行われた。当日は、歩くには最適な晩秋の晴天に恵まれた。

ウォーキングのコースは昨年からの反省点を踏まえ、3コースとした。①武道館を出発する「入間川・霞川下流コース」(約5km)、②藤沢公民館を出発する「不老川下流まちなかコース」(約4km)、③文化創造アトリエ・アミーゴを出発する「加治丘陵コース」(約5.5km)に分かれ、ゴール地点の愛宕公園をめざした。また、過去行ってきたコースの④老人福祉センターやまゆり荘を出発し途中で②コースに合流する「不老川上流コース」(約5.5km)、⑤農村環境改善センターを出発する「霞川上流コース」(約5.5km)も、役員を中心に環境チェックを行った。

それぞれの出発点に集合。例年同様に、参加者それぞれが「五感を使った環境通信簿」のチェックシートを手に、ポイントごとにそれぞれの判断で環境診断を行った。各コースの川辺や丘陵の自然、水質、ゴミや不

法投棄物、街並みや緑、道路状況などを五感を使いながら環境チェックをして歩いた。

(池田真幸)

## 入間川・霞川 下流コース

入間市武道館をスタートして、鍵山浄水場、笹井ダムを経て、入間川を下り、霞川との合流地点に進み、そこから霞川を上流に向かって上り、豊高橋を渡って、愛宕公園へ到着というコースです。

当日は、秋晴れの気持ちの良い天気にも恵まれ、入間市武道館に19名の参加者が集まりました。環境ウォーキングの説明、準備運動ののち、出発しました。

各チェックポイントでは、木内さんの川の歴史や役割、周辺の動植物についてのわかりやす



い説明があり、参加者の皆さんは興味深く聞いていました。また、参加者それぞれが五感を使った環境チェックを行いました。天気も良く、きれいな川沿いや景色を見ながらのんびり歩くことができ、普段は意識して見ることが無かったきれいな川沿いの川が身近に感じられ、これも多くの人達の長期に渡る努力のおかげであると感じ、今回参加して良かったと思いました。

(清水 稔)

## 不老川下流 まちなかコース

不老川下流まちなかコースは、藤沢公民館より29名で出発し、不老川下流を川沿いに歩き、健康福祉センター、安川電機を見学し、はなみずき通りを通ってゴールの愛宕公園に到着するコースをウォーキングしました。

不老川下流では参加者で不老川の川づくりに取り組んでおられる相馬さんに不老川の名前の由来や、各ポイントでの詳しい説明をいただきました。不老川ではいたるところで、多くの鴨が悠々と泳いでおり、かつて全国水質ワースト1の汚濁河川であったとは想像できないくらいきれいになってきている感じを受けました。しかし、冬季には水量が減り、家庭排水で水質が悪くなるということですので、

年間を通じて、生き物の住める川になればいいと思います。

つぎのポイント健康福祉センターでは、職員の方のガイドでピオトープそして市民団体「どんぐり林の会」が管理している林の中を散策しました。

今回、特別に見学させていただいた安川電機では、工場裏にわずかに手付かずで残る武蔵野原生林の中を散策し、ピオトープを見学しました。原生林の散策では、「街中にこんな森が残っているのか」と驚きの声や、ピオトープの周りの草木は、鳥や風で運ばれた種子により自生しているなどの説明をうけて、また、見学に来たいとの声がありました。

この後、はなみずき通りを歩き、全員、無事にゴールの愛宕公園に到着しました。

今回のウォーキングは、さわ



やかな秋晴れのもと、自然を見直す、良い機会となりました。

(山田竜二)

## 加治丘陵コース

朝から天気も良く、仏子の文化創造アトリエ「アミーゴ」に30人が集合し簡単な準備運動・環境診断の説明をしながら元気に出発しました。

まずは東金子小学校を目指し旧グリーンロッジの坂を登りました。皆さん、普段から歩いていける方があまりいなくなつたように息を切らして大変そうでしたが、でも木々のトンネルの中を抜けているうちに心地よい気分になつてきたようです。

第1チェックポイントの東金子小学校のピオトープに到着しました。出来た当初は綺麗だったピオトープもすっかり荒れていて少々がっかり。人がきちんと管理しなければただの池になつてしまふんでしょね。でも池の中に小さなメダカがじつとしているのを発見すると心がほつとしました。

そして青少年活動センターへ、皆さん、雑木林の中の土のやわらかさに感動していました。長い年月をかけて落ち葉が腐葉土に変わったフカフカした地面を感じられたと思います。

第2チェックポイントの牛沢の「ホテル生息地」は、草刈が



きちんとなされ、人がきちんと自然を管理して守っているんだなと感じました。入間市内にもホテルのいる所があるということは素晴らしいことです。いつまでもたいせつに引き継いでいくべきだと思います。

(児玉任司)

第3チェックポイントは加治丘陵が完全に分断されている圏央道です。交通量が激しく会話することもままありませんでした。これでは周りに生息する動物たちへの影響もはかり知れないでしょう。圏央道を動物たちが安全に渡れるような工夫が必要ですね。

今回参加された方の中に入間

に数十年住んでいても「こんなに自然が残っているんですね」「こんな所があるのを初めて知りました」と驚いていた方が多数いらっしゃいました。一人でも多くの方が人間の自然を感じていただいて、そして一人でも多くの人たちに伝えていってもうたえればと心から願っています。

## 「人を豊かに、地球を美しく」

### 環境に配慮した取り組み④

## 松田産業(株)

松田産業では「人を豊かに、地球を美しく」をスローガンに、電子部品を主体としたスクラップから金、銀など貴金属をリサイクルすること、引き取った産業廃棄物を無害化減量することを

行い、美しい地球環境と限りある資源を未来に引き継ぐために努力を続けています。

この社会的責任を果たすために、生産本部では99年10月にISO14001の認証を取得し、次のような環境への取り組みを行っています。

①京都議定書の発効によって日本は08年から12年の間にCO<sub>2</sub>の排出量を90年実績の6%削減すると国際社会に約束しましたが、CO<sub>2</sub>排出量は年々増え続け、02年実績の14%を削減しなければ約束は守れません。

松田産業では04年に02年比15%の削減となりましたが、12年まで維持することを目標とし、太陽光発電システムを開発センターに設置して自然エネルギーを有効活用すること、焼却炉の燃料を特A重油からクリーンな天然ガスへ切り替えること、同時に限りあるエネルギーを有効的に使用することを実施しています。

②美しい地球環境を守るためには、廃棄物の発生量を削減すること、発生した廃棄物を再利用することが必要です。松田産業では廃棄物は所有する廃棄物処理施設で自社処理すること、排出せざるを得ない廃棄物は再利用することを推進して、廃棄物の発生量を04年に00年実績の23%削減し、加えてリサイクル率は66%（00年）から83%（04年）に向上しました。

③廃棄物処理施設は、その維持管理と発生する排ガス、排水に対して厳しい基準が法律で定められています。松田産業ではこの基準を守ることが最低限の義務と考え、施設の設置基準を上回る高度な排ガス処理施設などを設置し、法基準よりクリーンなガス、水を排出するよう管理しています。今後も、このような活動はもとより、地域と密着した活動に努め、緑豊かで潤いのある環境作りに貢献してまいります。

# 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減の日

## エコライフDAYを実施

入間市環境まちづくり会議は、昨年12月から「エコライフDAY」の行動に参加することになりました。

エコライフDAYとは、地球温暖化防止のために、年に1日、日を定め、「1日版環境家計簿」(チェックシート)を使用して、参加者に環境問題のことを考えた生活をし、その成果を二酸化炭素等の削減量としてまとめ発表する事業です。

できるだけ多くの方が、地球温暖化防止のために行動をしていくきっかけ作りを目的として、「使わないときの電気製品のプラグをコンセントからぬく」や「自動販売機の飲み物は買わない」、「レジ袋はもらわなかった」など20項目の身近なことを

チェックし、それぞれ二酸化炭素の量に換算するようになっていきます。

チェックシートは、小学低・高学年生用、中学生用、高校生・一般用の4種類があります。このエコライフDAYは、当会議が昨年参加した「チーム・マイナス6%」(環境省が推進している地球温暖化防止のプロジェクト)に参加しています。

昨年12月4日(日)に実施したエコライフDAYの結果を報告します。

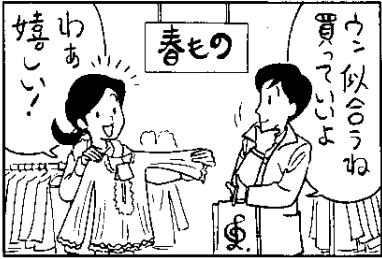
参加者は、小学生189名、中学生128名、一般230名の計547名で、削減した二酸化炭素量は、340,903g。これは、28本の木を植えたことと同程度のようなものです。なかでも削減量が一番多かった項目は、「自動車やバイクを使わず、徒歩、自転車、バス、電車を利用した」で、89,430gとなっています。

### 環境団体と連携し、環境保全とまちづくりを

### 『いるま生涯学習フェスティバル』

快晴に恵まれた昨年の十一月二十七日(日)、数えて第十一回目の『いるま生涯学習フェスティバル』が、産業文化センターを中心に開催されました。我が

### 主婦の日記



の展示も行いました。二つめの企画は、「いるまの仲間たち」。参加環境団体の活動をスライドショーで紹介するもので、当会も「環境ウォーキング」やみんなのごみ部会の活動を中心に約一分間のスライドを作成して、まちづくり会議のPRに努めました。

一つめは「水切り大作戦」と題し、家庭で手軽に取り組める「ゴミ減量方法」として「生ごみの水切り」を取り上げ、その意義と方法を紹介しました。生ゴミを手で絞る、日に当てて乾燥させる」といったオーソドックスな方法はもとより、メーカーの協賛を得て各種水切りグッズ

(新井 格)

### 編・集・後・記

冬の風物詩の下し柿が、地球温暖化にほんろうされている、という記事が中日新聞に掲載された。数年前から、干している途中で実がカビてしまった。カビの原因は、気温と湿度の高さなので、その対処として、干す場所を百五十メートル高い所にするという。

また、日本国内にいないはずのウイルスが相次いで発見されたり、蚊が媒介する感染症も北上しつつあるという。

このように、地球温暖化の影響が私たちの身近に目に見える形で進んでいることがわかる。

温暖化防止の京都議定書を国としては批准していないが、アメリカでも東部の六州などが、国を訴えてまで、独自の行動計画を推進し、温室効果ガスの排出を減らそうという努力をしている。

私たちも、「エコライフDAY」の継続実践で、二酸化炭素削減に努力をしましょう。

(平田 記)

### 入間市環境まちづくり会議

事務局：入間市役所環境経済部環境課  
住所：〒358-8511 入間市豊岡1丁目16番1号  
TEL：04-2964-1111(内線1241, 1243)  
FAX：04-2965-0232  
E-mail：ir210100@city.iruma.lg.jp